

大安寺報

名句・名言に学ぶ

福澤諭吉 (慶應義塾創設者)

「人生は芝居のごとし。
とかく人生あまり重く見ず、捨て身
になつて何事も一心に成すべし」

一般的に、人生を終えることを「人生の
終幕を迎える」ともいいます。昨今、
この人生の終幕に備え、身辺の整理や、
葬儀・お墓の準備、「エンディング・ノート」
と言われる、遺された人に託される書き
物を生前に記しておくなどの活動「終活」
が静かな広がりを見せています。流通
ジャーナリスト・金子哲雄氏の著書「僕
の死に方エンディングダイアリー五〇〇
日」がベストセラーとなったのが記憶に
に新しいところでは。

私たちは、否応なしにこの世に生まれ、
固有の名前を付けられ、家族や社会の中
で役割を与えられつつ、人生を歩み出さ
なくてはなりません。そうしていくうち、
中には「自分は自分の人生を生きていな
い」「今の自分は仮の自分だ」という思い
に苦しんだり、その思いに囚われるばか
りに、人生を前に歩めない人も出てきま
す。しかしながら、そうした「自分探し」
には答えが出てこないのが現実です。
福澤諭吉翁は、人生を「芝居のごとし」

と喝破しました。その上で、人生の意味
を問うばかりに足元を見失う人に対し、
「何事も一心に、捨て身となつて取り組む」
ことを勧めます。

中国の禅僧・瑞巖和尚は、毎日自分自
身に向かつて「主人公」と呼びかけ、また、
自分で「ハイ」と返事をしていました。「目
を醒ましているか」「ハイ」「これから先
も人に騙されるなよ」「ハイ、ハイ」と、
毎日独り言を言っていたそうです。

私たちは、この一度きりの、代役のい
ない「人生の一幕」を、否応なしに「主人公」
として生きなければなりません。そして
また、主人公でありつつづけるためには、
余命を告げられる中、遺される人たちの
ために一心に取り組んだ金子氏にならない、
また、瑞巖和尚のように、自らが人生の
主人公として生きていくか、常に自身に
問い続けなければならないのです。



自分探しより
も前に、まずは、
目の前のことに
一心に、全力で
あたってみる。
そのことにより、
主人公である自
分が自然と立ち
現われてくるの
です。 合掌

仏事

Q & A

第十七回

Q. 「血脈とは？」



A. 「お守り」と称する方もい
らっしゃいますが、正式名称
を「血脈」と申します。血脈
は、戒を授かり、お釈迦さま
つらなる系譜の中で、仏教徒
になったという証です。生前
授戒をされた方がお持ちのほ
か、葬儀の際に仏教徒となつ
た証として授けられます。

「お守り」と称されるのは、亡
き人の霊が無事にあの世へた
どり着くようにとの遺族の思
いが込められているためです。

当寺の最新情報をチェック!

■大安寺ホームページ

<http://www.daijanji.jp>

■大安寺携帯サイト

<http://keitai.daijanji.jp>

twitter

@daijanji2010

※行事予定などをお知らせします。

facebook

<http://www.facebook.com/daijanji>

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏 (なむしゃかむにぶつ)